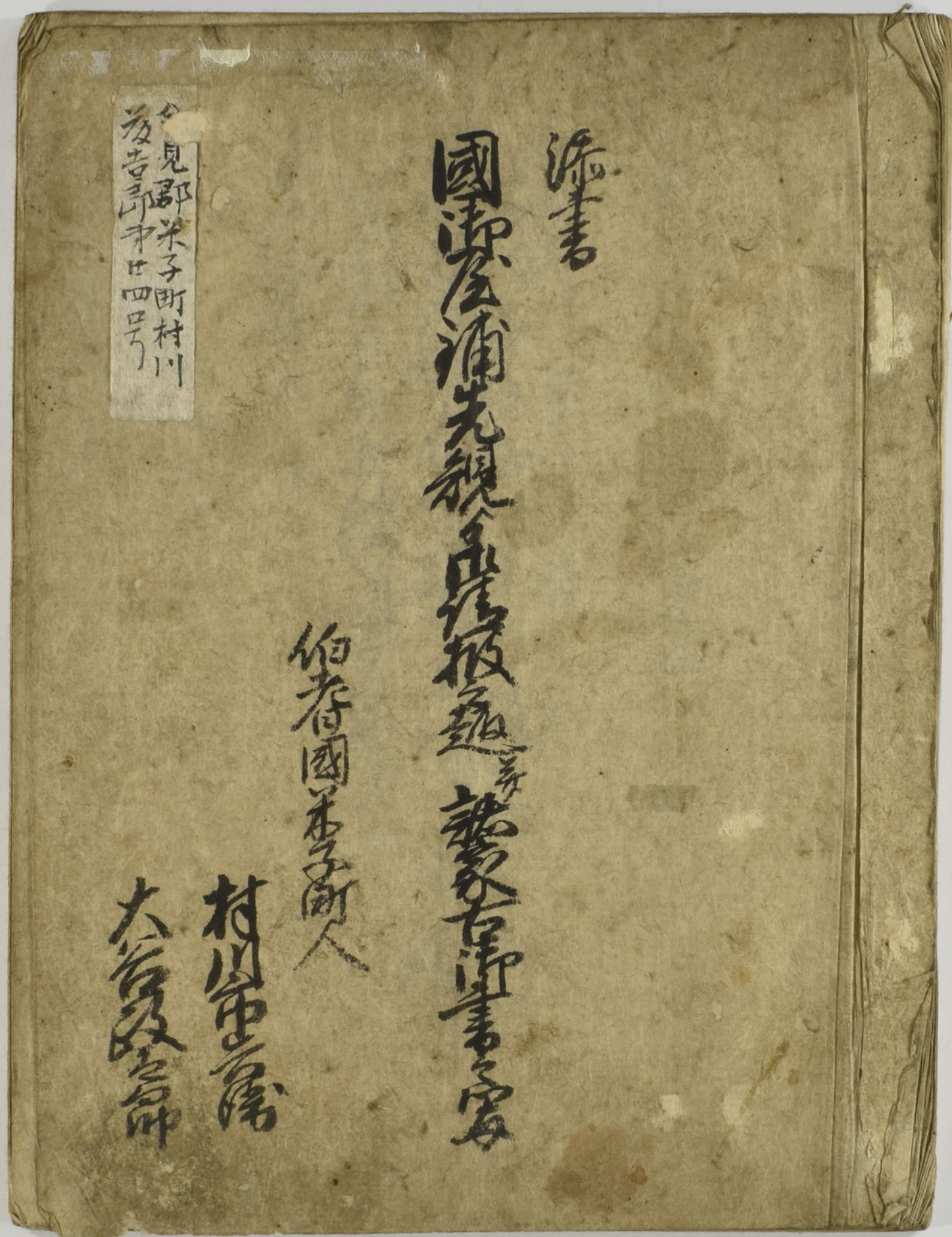




公見郎米子町村川
後吉郎中廿四号

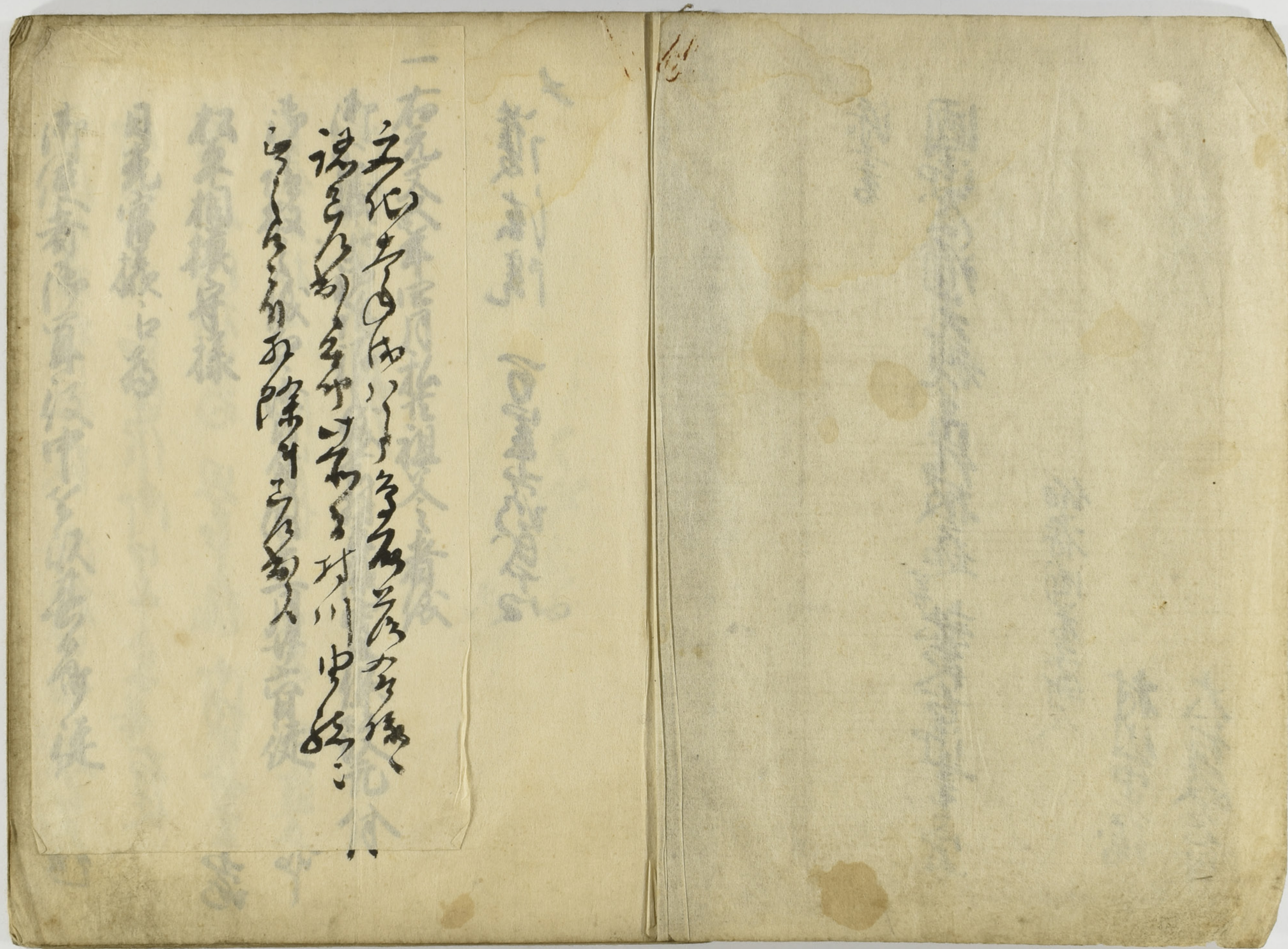
大谷及太郎

村川市子

仰春國米子町人

添書
國津屋浦先親
出板題
藝家古津書之安





一
之化をいふる多き所を
説くは中々ありて川中
に
いふるは除くべきなり

右元文元年四月松祖父者後
御公儀上清海正後去相藏實保改元付
清海報之成也海正同土月身資徒
松本相換守樣
日光宮様口為
清海者清海正中より其為少徒

以
沙
車
並
は
富
り
所
御
大
谷
家
文
書
4-26

復
法
院
大
谷
家
文
書
4-26

日様也私祖家 御頼為 思召越
諸江為 江達作御江と云并右從
日様御頼江為 思召越 御江江思召
日様御頼江 御江坊と云為 江達作
御紙上と云思召

復法院 百三十四日

以 思召越 思召越 思召越
思召越 思召越 思召越 思召越
車京越 思召越 思召越 思召越
前大細之度 思召越 思召越 思召越
思召越 思召越 思召越 思召越
宮様思召越 思召越 思召越 思召越
思召越 思召越 思召越 思召越
御公儀思召越 思召越 思召越 思召越

仙列年より在席張中

らりり

下 分 日 一

三十四日

御信
如尼

らりり

仙列年より在席張中

御別年より在席紙中
就事九右門殿より出立
不取留止しと云々
御膳所より中より
宮様御儀に
御禮家より
入つて

十二月十日

右通事左付
御信
御口より
御書付より

此紙を御換守殿
宮様は御信より
付及大
御換守殿

下

今之通法者復

元文七年公侯

一在讀書之西、書蹟依通私古先祖之志、古先祖之志

五占

公方樣

亦同見被為

作所依

御紋之時服深傾仕衣也

太守様

江長寺

九

御公儀に湯船に上候也
以在公儀右に候也
候に候也江一寺
付候に候也田園防分
護法院に上候也
土月廿日 護法院

江長寺

元文七年公儀

一在相書に西書頭佐通私に先祖に去り先祖に

江長寺

公方様

御同見被為

作所佐長

御紋之時服津領江長寺

大守様

江表を以て

九

御公儀に涉り上り候

以て此の儀に依りて

御公儀に依りて

御公儀に依りて

御公儀に依りて

土月廿日 渡法院

右に通達する

一 右預書に西書頭佐通利右之祖に去りて祖を

良と

公方様は

御同見被る

作所佐良

御紋の時服津領社に系を

大守様は

御同見之旨最先祖者左依

御紋衣津領之為

御所今右

御紋衣津領頂戴仕舞上作国又松尾祖父未
有之 江戸府右諸公長徳月日乃御所

大守様江

御同見之旨

御所御所右祖父大守九左門依

御公儀江御所御所依後也

古抄様依後也

大廣院様御代延享元年八月廿二日於

多府御所

御在御之旨左依

御同見之旨左依御所

御所御所 御書御所之通之為

御所御所之旨

古抄様依後也

大和様於

御所御所御所御所

御国見之長衣先祖者左依

御紋衣洋領為

紅海分衣

御紋衣洋領頂戴仕舞上作國又松祖父去

是也 御府書諸氏長衣月日乃御禮

大守様は

御目見之衣

仁所任有右祖父大守九左門依

御公儀は御禮証以後也

大廣院様御代延享元年八月廿二日於

多府正心

御在國之長衣領

御目見之衣衣領如違

御禮初以 御書附衣之通也為

御附衣之衣也

大和様於

御館造候申候より

江波新巻

丁未年

丁未年

右通漢江江東書法書
改字如左

仁波親也

大谷九郎右衛門 牛馬金太夫
上付書

御用成るるに

此今

御館口へ

いふ

大谷九郎右衛門 牛馬金太夫
上付書

いふ入紙面

此書より

いふ

いふ

い

い

右通流

改字

之方後漢書

范曄

御目見於金以

何分以

子以廿二日

石之通涉石良

一石中書之書於通字係九年辰寅月

竹瀝波海紙方之及在從

御公儀

御尊之舊於文從

松東相換守株涉以之條之則以

御書附為 恒如越光

中渡之目錄本

之新刊紙讀本

たき通

一 延二拾二年、中七年、跡と
遺作、此段、人、成、存、命

一 石江、子、多、中、下、作、文

一 時、及、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一 中、子、多、人、成、存、命

一件之書已家唐人作詩

今下以之爲市官作受

一五福之名品也

王侯

一九五〇年

一竹亭

子長

一石之微涉海揚名

御製平定詩名 吳法執書

沙上復由結

一新古而保古 御老中 分

御奉書之字

一而紋之風見沛卷之五後集

一、安、宏、祖、江、戶、江、沖、同、見

張氏復初年号

京保九申
辰年巳月

右通清身に付法信書通

右に如法以祖に付市を設

出府に 信所を設け

元

一 村市を設け法用をなすにあらむ由に
のりしに

一 市を設け由にあらむに 新市を設け
法先申法奉書に致す

一 大殿様御代意尾内町に役所を設け
しに付しに

一 寺に古寺より竹法渡海に役所を設け
しに付しに

一 市を設けしに 寺に役所を設けしに
のりしに

六月日

右通清身に付法信書通

正心書厨仕 中書之次書要細書法

尸上右系衣右指手正法正之從

對馬書儀

四道様に正る候

法接段段 法書之旨あり

書之序より初段四書に

戸の中より右に正る候

之趣より正る候なり

一 古今諸公の法

法より正る候なり

正る候は御領合

之より正る候

正る候は御領合

村川市多末代官
沙牟羅門竹源渡
海江利永相造
六月之末帰國
別江故風物難
之府之浦漂

流江和日平人
石本物難表
念之入世方
送之末波江之
与今所之我末
海之末之要曲

沼川次郎重忠

石之能一二

地

宗村馬守

八月廿五日

奉

美尾内通慶

山家

右通法度

西代月と相付市為

玉成江戸と始る所

長文福二己六月

御國金補徒

美尾内通

志摩様

御守と後方と

美尾内通

美尾内通

但馬様より美尾内通

美尾内通

沼川次郎重平公

召文能一二〇〇

地

宗村馬守

八月廿五日

書

美尾内近度

山家

右通法度

右祖村川市主殿に戸上始り

長文福二七六月

御國金補送

志摩播

御公送後方

法名

但馬様より

宗村川市主殿に府上

右為 御禮等忍れ候と申渡り候

少長

并、市代金様御書

但馬様

御書、江成山右衛門様

不様式、去年始、此御書、江成山右衛門様、御書、
為 江成山右衛門様、御書、江成山右衛門様

一、市代金様御書

市代金様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

江成山右衛門様御書、江成山右衛門様

1214

右為 御禮等忍れ候 御禮等

御禮等

并 御代々御禮等

但馬様

御書 江成山公致書後

御樣式去年始出御書より上書右御禮等
為 御禮等 御書 江成山公致書後

一 御代々御禮等

市之御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

御代々御禮等

右為 御禮等為礼 和法師書

如 乙卯年正月

但馬探 法書 法藏上公致書後

外探或七年始出法書 乃古物 右法師書
為 法藏箱 法書 法藏上公致書後

一 寺中人致書村門

市之清峰志乃口口余

長中 山在相取中 中

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

寺上人致書 志乃口口余

とくりやうとくちのきんぎょ
公方様上 御目見難調
付度
公方様上 御目見難調
戸帳もさうと山家好
戸帳も何處に改む親
市を改めんとおきか
江戸へ紙張難本は改

将兵紙のきんぎょと市を改
戸帳もさうと山家好
御目見難調
戸帳も何處に改む親
市を改めんとおきか
江戸へ紙張難本は改
一 新市を改め早くと
いへば江戸中 紙の改

一、家より遠く親市産
江戸にあり紙幣市産
来り親市市産
一村に江戸市産
江戸より南に江戸市産
江戸より南に江戸市産
江戸より南に江戸市産

家山石中書人

侶馬

字在口

幸

孝
町家

宋王忠文公
龍虎山先生

一 江戸にありては親市産
江戸にありては親市産
未だ親市ありては
一村に江戸にありては
江戸にありては親市産
江戸にありては親市産
江戸にありては親市産
江戸にありては親市産

江戸にありては親市産
江戸にありては親市産

江戸にありては親市産

江戸にありては親市産

江戸にありては親市産

年七十矣而志氣
 如壯年海內一
 身入之於彼然
 公方強壯首尾能
 以目見於海屯所
 以合之於古之
 子年也

九

孝

村川ちやうめ

龍虎山張子中
 先生海內
 先生入
 先生入
 先生入

高尾誠理

くらや

吉

村川市

けり

けり

あま

夏遊記

今午書 吉

村山亭

終日閑坐
之化從所中
時有之佳
之海之山

今午入
舟中
休

夏遊記

今午書 吉

村山亭

終日閑坐
之化從所中
時有之佳
之海之山

大谷家文書

意欲理

今々書

吉平

村山守和

徳川家文書
之代は所中
相寄る様
に御座り
と云ふ

入る様
入る様
入る様
入る様

之書

今書

吉平

村山守和
大谷家文書
吉平

為子卿書

夢野あまのこ

一
一
一

15
4
美
27
3

けふ

任

書

上

江表書乃古有今故曰表

為 清江稿 御書

今

乾之德及

上經

西

書

村川市書

右通法度

附

出師天雨三日三月辛始涉程書云方古有今故曰格
乾平大要及

乾平大正

平太海禄在羊山詠書之為 清江稿初 御書
咸下作 御書 吳如虎

為子庸之嘉猷
萬年萬古永紀
懷德之流兮矣
加之以順承之德

為子卿之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書

右通法書度

附

當時天賜三升三月羊年法書書方古分今以回
平太馬樣在羊年法書書方古分今以回
或下作御書書方古分今以回

為子卿之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書
一極之書

Handwritten Japanese text in cursive (sōsho) style, spanning two pages. The text is written on aged, yellowish paper. A vertical strip of paper is pasted over the center fold, partially obscuring the text. The characters are dark ink, and the overall appearance is that of a historical document or manuscript.

うたかた

平右衛門

了却 幸

村中 幸

平右衛門の御書
新中 幸
平右衛門の御書
平右衛門の御書

平右衛門の御書
平右衛門の御書
平右衛門の御書
平右衛門の御書

平右衛門

了却 幸

平右衛門

幸

平右衛門

右通法在度

一 御入國日來を新元祿入る者之儀成行爲

海海江古良

國別多取

多府 御用之類取 御用文正

御用文正 御用之類取 御用文正

御用文正 御用之類取 御用文正

御用文正 御用之類取 御用文正

御書附之字表

免

一 上之串籠 又小貝

一 上之串籠 二小貝

一 中串籠 三小貝

一 上之九子 二小貝

一 上之九子 二小貝

一 佛漢炮 二小貝

右通法在度

一御入國之日来るに於て御入之者に御成行儀

渡海江江良

高府 御用之儀以 御注文江

給付市之御書付并 御用之品江

江上作也 御小目録江成 御注文江

御小目録江成 御注文江 御注文江

御書附之字卷

免

一上之串籠 又小貝

一上之串籠 二小貝

一中之串籠 三小貝

一上之九子 二小貝

一上之九子 三小貝

一揚溪炮 武百貝

一 龍陽院

寺

一本耳

寺

右

殿樣御用也

物

西

村

竹

一 上

一 上

一 上

一 中

一 下

一 揚

一 揚

一本今什 五妹

右表

大般樣御用儀上

好手儀

手一上

村山常高

免

一中串能

二彩

一中九千

又百貝

一下九千

又百貝

一楊漢能

百貝

一楊漢能

八妹

右一色

長列樣御用儀

新井氏家系

河内守

村川守高俊

元

一上ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一上ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一中ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一下ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一石ノ津砲石連

石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一桐ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一沙ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一上ノ津砲石連

内 石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方、石連砲石連八ヶ方

一 中 日

西條寺造

日守寺造

一 下 日

西條寺造

日守寺造

右 西條寺造 日守寺造 西條寺造

一 相 本

西條寺造 日守寺造 西條寺造

山田寺造

寛文四年六月十八日

文田寺造

大眼寺造

坂門寺造

金百八寺造

右 通 寺 造

一 右 西條寺造 日守寺造 西條寺造

於 西條寺造 日守寺造 西條寺造

西條寺造 日守寺造 西條寺造

御制禁之趣書上

其書附

御國御文 出給之書書上

正心之上

一 壬午子之月八月上旬

壬午子之月八月上旬

御奉書行海海之御書上

御奉書上

元禄元年九月日

村川市

正心之上

其書

御書上

御書上

村川市

御制禁ふ趣書信上云

河上儀に按ふ事書附 後

御開成文に 出給ふ事書らるるに不申上云
お獲て字め丸

正忍に上云

一 去年子に 八月上旬迄

杉平作存と殿に 仰渡に付渡候

御奉書付渡渡候に成向後正判禁と 仰付来

と通お守の事と名出左渡候に候事候と

御別事書人

元禄元年九月日

村川市系

正忍に上云

御後主相より 付渡渡候に候事と以渡世に候

左様付渡渡候に候御制禁と云

仰附高附

渡世の修業終る歳或る極むる大なる
世將に知れり上なる如き以て及湯由北に紙
中作何とて 殿様 御威光に渡世を
はるく通 御同見せられたまふに
作得云以 御意照有る如湯より
下と雖有る事好い候と有る候事
元禄十年 世九月廿一日 村川市書

國府安所役

吉岡平馬様

小倉伊豆守様

右に通達する候事右京保九年閏四月
多府法白の條より通達書より通達する候
事如左

右に思ひよる事

一 右に通達する候事右京保九年閏四月

渡世の修業終に成道成る極なる事なり
世に知らざる人なり及法由地より
中作何とて 殿様 御威光より渡世を
修業に通 御同見せられたまふに
修業会以 御意照有るに法より
下と雖有る事なり修業に
元禄十年九月廿一日 村川市蔵

吉岡平馬様

小書御返書

右に通達を左様と右京保久の同月
多府法より修業の通達を右様
写し

右様より

一、修業の事分る事なり修業の修業は渡世の修業

此等好食なる所を中後雲外并隠波明く
る中より抱中いなり所へ去好食なる所を
此後云々なり

一 二移之年より前竹海に渡河は只今お残存中
之の又人山を居因武人言出取る事ある所を
残る人門武人言八十余の人数に此後を連
中七十餘年より此中良

一 此後を連中河を居中此中六の移り中を

渡河は此より此後

一 唐人竹海に年より前竹海より少人数に
より此後

此等好食なる所を中後雲外并隠波明く
る中より抱中いなり所へ去好食なる所を
此後云々なり

一 二移之年より前竹海に渡河は只今お残存中
之の又人山を居因武人言出取る事ある所を
残る人門武人言八十余の人数に此後を連
中七十餘年より此中良

一 新羅祖師代渡海江外と云道

法華作村川市系然云云云云渡海江外

云云云云云云

一 大谷九年所渡海今云西代竹渡渡海

御免と云云云云云云云云云云云云

一 竹渡渡海と云道

御免作年号

御国見江江年号 云云云云云云云云

中六年号月日お知事云

一 御免と云見と云代と云

御免作是又

御免と云云云云云云云

一 元禄十年正月村川市系然云云云云

殿様御威光云云竹渡渡海と云相款と云

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

云云云云云云云云云云云云云云

米字三月

河國屋敷法勝親王

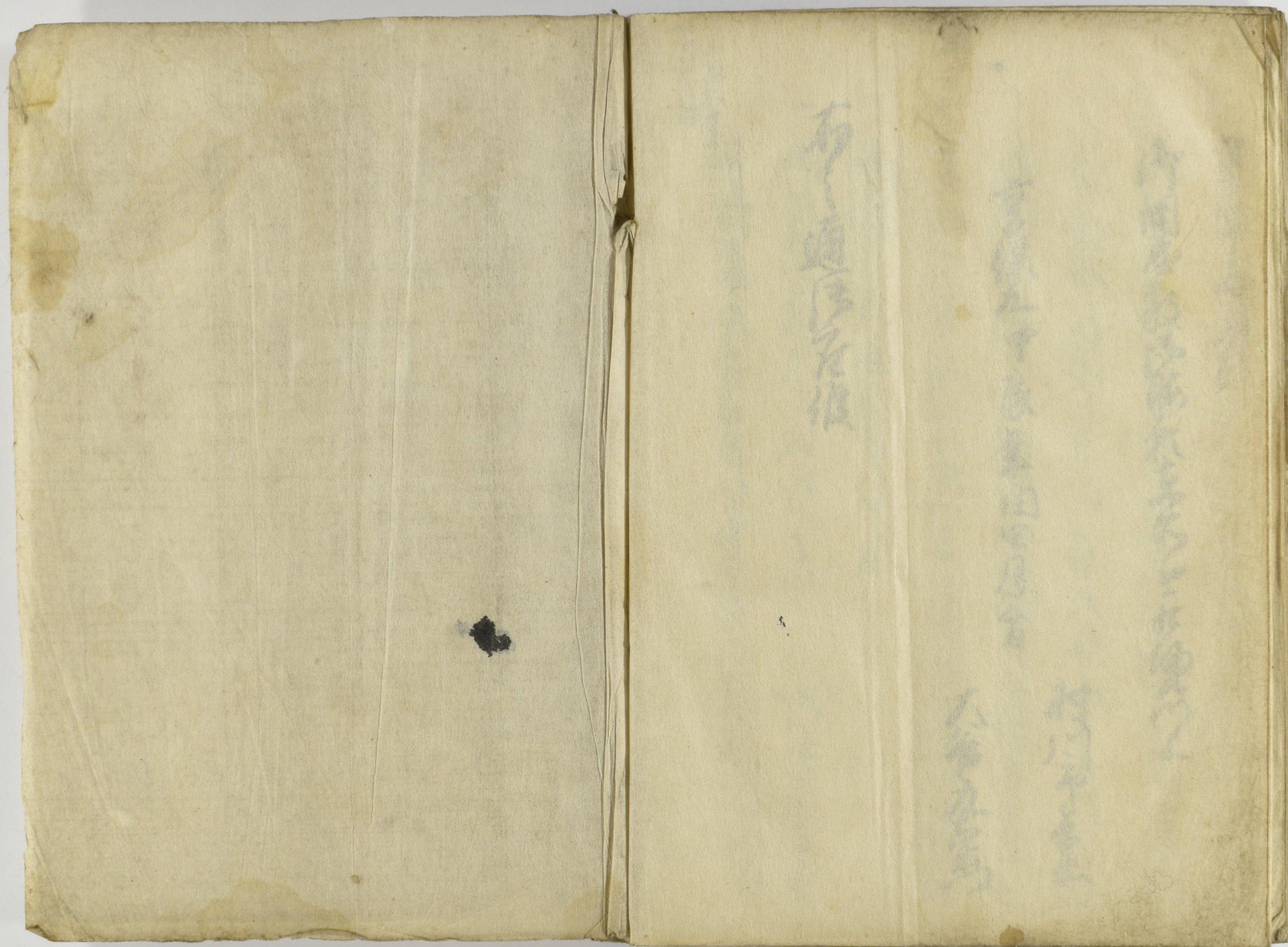
村川市集

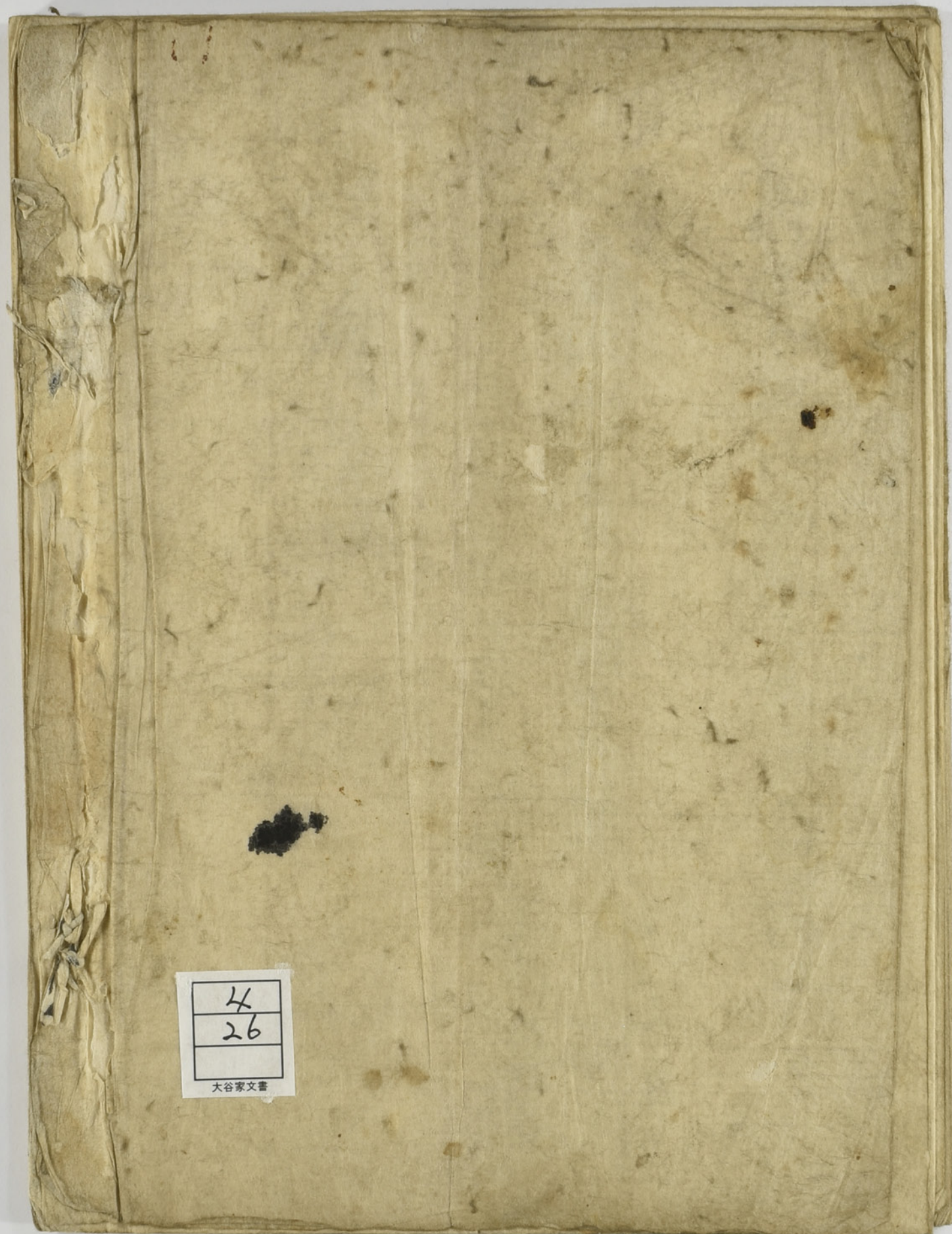
享保九年辰年四月

大谷九郎

右通法親王

一河國屋敷
法勝親王
享保九年
四月





4
26
大谷家文書

【大谷家文書】 4-26

